

編 集 後 記

杏林医学会誌が電子版になって5年が過ぎました。財政難が電子版への移行を促したわけですが、最近では多少なりともゆとりができたと聞きます。その主な理由は会員数の増加にあります。本学学生のご父兄有志が会員になってくださったことが大きかったようです。ゆとりによって本編集委員会の活動も広がりました。従来、本誌に発表された論文の中から杏林医学会賞を選考させていただいていましたが、加えて今年度から海外の英文誌に掲載された論文を会員の申請に応じて選考して助成する杏林医学研究奨励賞を設けることができました。選考の結果、今年度は杏林医学会賞には麻酔科学の吉松貴史先生が受賞されましたが、研究奨励賞には海外の著名誌に発表された18名の先生方が応募され、非常にレベルの高い選考になりました。受賞者数に制限があり、選考の結果、9名の先生方が選ばれました。研究奨励賞の論文を読むと各教室で行われている先進的な研究の一端を垣間見ることができます。受賞者は本医学会誌に論文要旨を掲載してくれる予定です。

一方、財政的なゆとりは学生を対象にした研究助成を可能にしました。学生トラベルアワードおよび学生リサーチ賞として、学生の学会発表ための旅費や論文執筆を助成する制度がスタートしています。本医学会幹事会の審査のもと選考されますが、昨年度はトラベルアワードとして2件2名、リサーチ賞として4件7名が選ばれております。今年度も全国規模の学会総会の医学部学生部門103件のなか優秀賞に輝いた学生など注目に値するものがあります。なお、受賞者は本医学会誌に寄稿することになっていますので楽しみです。

学術誌としての医学会誌に原著や症例報告が多いのは当然ですが、大学の医学会誌ということを考えると多くの会員に読んでいただける内容も取り上げたいところです。そこで、今年度からポピュラーなテーマを選んで、それに関連する領域の多くの専門家にご自身の領域を概説していただくことにいたしました。3号では再生医療を特集いたしました。折からiPS細胞の山中伸弥教授のノーベル賞受賞が発表され、時宜を得た内容となりました。4号では大学病院の診療の柱の1つでもあるがん医療を取り上げました。1回の特集には入れきらず、次年度にも続くことになりそうです。ご期待ください。

(Y.O.)

編 集 委 員

(長) 蒲 生 忍
 岡 明 岡 島 康 友 川 村 治 子
 小 林 治 小 林 富美恵 杉 山 政 則
 照 屋 浩 司 松 村 讓 兒 吉 野 秀 朗

杏林医学会雑誌 第43巻 第4号

URL : <http://plaza.umin.ac.jp/~kyorinms/>

平成24年12月31日発行

編集人 蒲 生 忍

発行所 杏 林 医 学 会

東京都三鷹市新川6-20-2

杏林大学 医学図書館内